

令和4年度第3回伊賀市スポーツ推進審議会会議録

日時：令和5年1月31日（火）午前9時58分～午前11時35分

場所：市役所本庁舎 5階501会議室

出席者：中井洗一、陶山美佐、田中栄一、辻本茂和、五百雀豊、初矢千秋、松尾佳子、辻喜嗣、樋口優子、松本和久、中林千春、山本いずみ、田邊泰志
藤山企画振興部長、福岡企画振興部次長、岡本スポーツ振興課長、山岡主査、豆本主査、宮田

事項1 あいさつ

2 伊賀市アーバンスポーツの施設整備について（諮問）

3 協議事項

①伊賀市アーバンスポーツの施設整備基本方針について

②審議会の構成について

③検討スケジュールについて

4 その他

1 あいさつ

- ・中井会長あいさつ
- ・会議の成立及び議事録公開の確認
- ・資料の確認、議長の選任

2 伊賀市アーバンスポーツの施設整備について（諮問）

資料1

- ・市から諮問（市長あいさつ）
- ・諮問書の受理

3 協議事項

①伊賀市アーバンスポーツの施設整備基本方針について

資料2

（会長）

それでは事項書3①伊賀市アーバンスポーツの施設整備基本方針について事務局より説明をお願いします。

（事務局）

事務局説明。

（会長）

以上、説明が終わりました。では委員の皆さんから何かご質問ご意見等がありますか。

(委員)

資料を読みましたが、一番肝心なところでこの数年間で具体的に何がしたいのだろうか。アーバンスポーツの種目をいろいろ挙げていただいています、例えばスケートボードのパークを作りたいのか、それとも BMX の自転車走れる場所を整備したいのかとか最終的に何がしたいのかをまず明確にさせていただきたいのが1点と、現状がわからないことが多いので、例えば駅前でスケートボードの練習をやられていますが伊賀市における施設の必要性がどれくらいあるのかを認識されているのか、それから近隣の名張市にそういうところがあるのにわざわざ伊賀市で造る必要があるのかを考えると近隣の状況の把握についても教えていただきたいです。まずはこれくらいで。

(会長)

事務局で回答できる範囲内をお願いします。

(事務局)

まず1点目のどんな種目をしていくかというお尋ねですが、アーバンスポーツは資料にありますとおりいろいろな種類がありますので、種目によっては体育館でできるものもありますしできないものもあります。基本的にはスケートボード・BMX を基軸に、例えば3on3(3人制バスケット)を設置するようなことは考えています。相乗効果が得られるようなことが一番いいんですが、何かに特化してしまう施設になるとその種目だけしかできないとか、あと拡張性が見通せないこともあってその辺の相反することもあって、ある一定複数の種目ができるという想定を考えております。2点目のお尋ねです。正直把握はできていませんが例えば、現在の日本の人口が1億2千万人と仮定し、伊賀市の人口が8万7千人なので構成要件として0.07%が伊賀市の総人口の占める割合になります。単純にですが、それを先ほどの愛好者数にかけると野球の愛好者数にかけると5千人くらい、ただし赤ちゃんから高齢者まで全てになりますのでみんながみんなできるわけではないのですが、サッカーですと430万人ですので3千人ということから、アーバンスポーツ全体で280万人にかけますと2千人ぐらいいかなというようなものです。それから3点目です。委員がおっしゃいましたように名張市には民間のスケートボード施設があります。あとは山添村にもキャンプ場と併設した施設があります。松阪市にもあります。我々が考えているのは、スポーツを気軽にやってみたい、ちょっとかじってみたいという方が中にはいると思いますのでそういう方をターゲットにしつつ何かできる場所づくりがしたいというイメージで考えています。

(会長)

補足質問ございますか。

(委員)

いろいろ聞きたいことは山ほどあるんです、全然わからないので。4頁の課題のところの真ん中あたりですが伊賀市の課題の中で若者のスポーツ離れにも繋がっていると表現されていますが、このスケートボードパークができなかったら若者はスポーツ離れしていくのだろうかとちょっと感じているんです。レクリエーション協会はニュースポーツをいろいろとやっていますが新しいのができると古いのがなくなっていく。例えば、インディアカというスポーツがあってすごく流行っていましたが、今は誰もする人がいません。新しくできるスポーツは将来的になくなっていく可能性があります。伝統

のあるスポーツはそれなりにノウハウを持ちながらやっているのです。そういうことはないのですが、一過性のものになっていきはしないかということがひとつ懸念されます。それをスポーツ離れに繋げていくのは無理があるのではないかなど。

(会長)

表現方法については、ここで議論してもあれですので委員のご意見として承りました。あと他に質問はありますか。

(委員)

このアーバンスポーツですが、私はブレイキンダンスをやっています。スケートボードもスノーボードもこのコロナでやってみようと3年前からやり始めました。ボルタリングもやっています。私は名張でスタジオをもっておりそこで子供たちの育成というか、脳にとってもいいんですが違う視点から、バランス感覚とか今までにない野球のようなチームワークとかのような部分ではなく、個々でやることで心の成長とか脳に対し感覚的なバランスとか伝達をつないでいくところに特化している部分があります。まだ知名度がないので特に伊賀市とか名張市は人口が少ないのでなかなか理解するのも難しいとは思いますが。競い合うとかいうよりも仲間で助け合いながら個々の技を魅せるとか、その技を競いあうことを喜びにして、互いが褒め称えてあげたりというサポートをしたりという部分があります。私はそういう部分は今の子供たちや若者にとってはいい刺激になるし、一人じゃないよという仲間内でやりながら助けたり一つの技を完成していこうぜというのが、ダンスやダブルダッチのように自分の感性とか、ルールの中でいろんな技を自分で磨きながらつないでいくという部分があります。場所があればどこでもやりたい、そういう部分をもし伊賀市でそういう施設があればうまく活用して、若者だけでなく高齢者も交えてやっていけるのではないかと思います。これに関しては、知識がまだみなさんにはないと思います。脳トレーニングにも効果があるスポーツでもありますし、スポーツの特徴を皆さんにも知ってもらいたいのかと思います。

(会長)

先日の全員協議会にもありましたが、若者が路上や公園でやっているのをなんとか施設整備したいというところからどうも始まったようですので、施設整備をするということがやはり市の思いでもあるようです。我々審議会としては、施設整備をするに至るまでに種目の内容ももう少し勉強していきながら審議会のなかでよりいい答申案として積み上げていかなければならないと思っていますし、もちろん予算もあると思いますので予算に見合った整備計画にもなると思いますので、その辺のバランスも取りながら皆様方のご意見を頂戴しよりいい答申案にしていきたいと思っています。他に質問はありますか。

(委員)

松阪市の施設は全国でも5本の指に入るだけの施設を持っておられます。松阪市さんはどういう展望で造られたのか、これからどうしていくのか、三重県内にあるため将来競合するようなことにもなるのかとかいろいろ思いました。他の委員の意見を聞いていると、やっている本人たちの思い気持ちもそうですが、それを支える側の大人たちがあまりにも情報がないので何に困っているのかというのを知りたいなと思いました。困ることが解決できなければ施設には人は集まらないのではないかと。自分で

も調べてみましたが、いろんな方面からの意見を知りたい。アンケート調査をすることにもなるだろうと思いますがそういう思いが強いです。

(会長)

松阪市のことで、今現在情報提供できることはありますか。

(委員)

1月2日に松阪総合スケートパークに行きまして、その間に20~30人スケートボードをしている子達がいて練習していました。そのパークはスケートボードのみのパークでBMXはできないです。伊賀市でパークを造るなら、両方ができる施設なら県外からもいろんな方を呼びこんで情報発信できればいいと考えます。やる場所が少ないということで、利用者はみんな施設を大事にしています。例えばトイレにしてもみんなきれいに使用しています。

(会長)

委員言われた以外に何か事務局把握されていますか。

(事務局)

松阪市はスケートボード・インラインスケートに特化した施設で、コンクリートでガチガチに固めてしまった施設でありそれ以外の種目はできません。総合的な運動公園の一角に整備されています。隣ではグラウンドがあって野球やサッカーをし、プラスアルファここではスケートボードができ一体的なスポーツエリアの中に位置しています。管理は市直営で道路部門が所管となっています。競技団体から場所がなかったので請願なり要望なりをして何年かかけ整備に至りました。その中で市も施設がないという課題もあったので整備に動いたということです。整備事業費は約4億円と聞いています。先ほど委員の意見の中にもありましたが、同じ施設を造ってもお互いが競合して良いと思う施設にしか行かなくなるので逆にない施設を造っていく必要があるのかなとか、アクティビティとして例えば隣に温泉施設があるとか、プールがあるとかそういう視点を持ちつつスポーツ施設という頭だけではなく、遊びの要素もつけた施設が今の時代にあってきているのかなと考えています。

(事務局)

補足になりますが、**資料2**の基本方針はこういう形で進めていこうか、検討していこうかという指針ですのでいろいろとご質問がありましたが、アーバンスポーツにはいろいろな種目があります。市内にもどんなことをやっていらっしゃる方がいるか、どんなことをこれからやって行きたい、どういったものを目指したい、例えば施設も全国レベルのものから地域で利用しやすい規模のものもあったり、例えば小中学校先生方にお世話をかけてアンケートを取っていく等そういったこともやっていきたいと考えています。その意向を把握した中で、いろんな種目もありますが先ほどおっしゃっていましたが時代の流れにも対応できるもの、汎用性のある施設というのも一つ、望ましいというものをこの審議会でご検討いただきたいというのが趣旨です。あと松阪市の施設と競合するというごことですが、他の民間の施設もありますし、例えばどんなものを作っていかという中で規模などいろんなものがあるかと思うのですが方針の中で作り上げていただく中でこういったものであれば行政だけがするのではなく当然民間が入ってですね、一緒に連携した中でやった方がいいんだとか、運営した方がいいとか、こ

れなら民間がやりますよとかあるかもしれませんが、収益性がないのであれば行政だけで松阪市のよ
うに管理していくとかいろんな手法があります。その管理手法につきましては、この5頁の7基本的な
考え方の最後にありますが伊賀市公民連携（PPP）ガイドラインがあります。これは市の施設を建てて
いく中で、施設だけではないのですが民間でやった方がいいもの連携してやった方がいいもの、行政が
すべきものこういったものを基に皆さんで協議いただいて運営手法についても決めていただきたいと
思います。なかなか基本方針だけではほんとに漠然としたものしかないので、これから基本計画を作り
あげていただくようなかたちになります。

（会長）

他にご意見、ご質問はありますか。

（委員）

資料いただいた時の感想になるかと思います。最近の情報を見ていると YOU にもダブルダッチのこ
とが載っていたり、西矢さんが名張市に関係がある方だったり情報が増えてきていたり、たまたま青
山に行くとボルダリングのできる所があったり、滋賀県では栗東スラッグラインのチランが置いてあ
ったり、自分ができないかもしれないけどチランを見るだけでワクワクする。する子達はもちろんだけ
れども見ている元気が出るし、自分もあまり危なくなさそうならスラッグラインならできるかなと
か、栗東やったら行けるかなとか思いながら基本方針を受け取りましたので、1頁にあるアーバンスポ
ーツの施設整備にあたっては利用者のターゲットを明確にするとか、見る側が危なくない範囲で見ら
れるところがいいとか、あるいはこの施設が温泉施設もあったら友達と一緒に試してみることもで
きるし、年代に合わせてチャレンジが出来ればいいなと直感的に思ったんです。ただ委員の意見にもあ
ったように、一過性になったら莫大な予算を使ってというその辺の兼ね合いもあるかなと思ったり、若
者や幼児がトランポリンでジャンプしたりそういうのを見ていると、幼いころから始められるものが
平衡感覚とか大人になるとどうしても鈍ってくるので、長い目で見てそういうのがつながるのだっ
たら、この先伊賀市の調査を活かしながら専門部会の方に情報をいただきながら進めていきたいなと思
いました。

（会長）

他に何かご意見、ご質問はありますか。

（事務局）

先ほど、委員がおっしゃられたように5頁7整備の基本的な考え方を書いております。中段くらいに
伊賀市らしい個性や特色あるアーバンスポーツ施設の整備とあります。伊賀市にとってどんなことが
必要なのかとか、そういったところが今後皆さんの意見を聞きながら決めていきたいと考えています。

（委員）

伊賀市でどれだけスポーツが必要なのかというところですが、先ほどもおっしゃっていただきました
がアンケート等をとって、どれぐらいの必要性があるのかということは知っておかなければならな
いのかなと。造ったけれども誰も利用しないということでは予算をかけてされることですのでそこも
一つかなと思いますし、私も複合施設の方がいいのかなという風には思います。老人からこどもまでず

っと楽しめるような複合施設、そこにスケートボード場があったりとかBMXのできる場所があったりだとか複合施設があればおもしろいかなと。あとこの伊賀の地を利用するのも一つかなと。例えば名阪国道が走っているの、伊賀市だけとか名張市だけということではなく例えば四日市市から名阪国道で来てもらうとか、又は近隣の奈良県や大阪の方からも来てもらって施設を利用してもらうようなそういう風なPRをするとか、そういう伊賀の地というのを、真ん中にあるのでそれでもそういう風な形でもいけるのではないかと。それとDMG MORIアリーナが今ボルダリングを建設しているというようなこともあります。実際、今年の6月か7月頃に完成するということを聞いておりますので、その状況ですね実際にそれがどれくらい利用されていて、例えば他県からも利用しに来るのかどうなのかとかいうような部分であったり、子ども達がどれくらいやりに来るのかとか動向とかも調べてですね、新しい施設を造っていくというようなことも一つの案なのかなと思います。

(委員)

私も総合施設が賛成です。老人・今現在の子ども・未来性を中心に考えていただきたい。これからの将来性、オリンピック競技に出る子どもさんが出てくるかわからないことを一方の軸として老後の私たちがやるべきこと、先ほど言われました介護とかそういう関係で認知症も病院が必要になってくるそういう人達の運動機能ということ、私達は支えていかなければならないと思うんです。今後これからのスポーツ施設として黽ごっこにならないようにしていただきたいというのが、レクリエーション協会の例のようにわかります。長い目で見れば例えですけれども、昔大阪の長居陸上競技場ってありましたけれどもただの公園でした。でもテニスコートができ人が集まりました。誰かが走りまわるとランニングコースができました。伊賀市の一番地形のいいところ何か伊賀市特有のものを造っていくことを考えていけば、伊賀市特有のもので人が集まってくるかと思うんです。青山つつじマラソンがありました。今は止めています。その時にパークールですか、ここは地形がものすごくいい、トレーニングするのも一番いい、全国から三重県は注目されてくると思うんです。だから地形を活かした何かこれからどっかの山を潰してどうのこうのではなくて、地形のいいところを活かして。それからもうひとつ、協賛してくれるような全国からスポーツのために伊賀市でアンケートか何か、伊賀市でこういうものを考えていますか協賛してくれるところはありませんかという呼びかけはできるんじゃないかと思うんです。

(会長)

他に質問がないようでしたら、皆様にお諮りしたいと思います。事務局の提案どおりとさせていただきます。よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは、議事について承認とさせていただきます。

②審議会の構成について

資料3

(会長)

それでは、続いて事項書3②審議会の構成について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

事務局説明。

(会長)

以上、説明が終わりました。では、委員の皆さんから何かご質問、ご意見等はございませんか。いかがでしょうか。

(委員)

専門部会はどのくらいの人数を考えておられますか。

(事務局)

だいたい10名弱ぐらいの専門部会の想定をしまして、基本的には議会で可決されなければなんともならないのですが、基本的な専門部会の役職としましては、特定事項の調査検討を行なうものでありまして専門的な検討をいただくこと。臨時委員については、計画ができた段階でお役目については終了ということで考えています。臨時委員と皆さんの中から何人かの10名弱の想定はしております。

(委員)

専門部会ですが、私たち健常者です。中には障がい者の方がいた方がいいと思うんです。一人は聴覚障がい者の方がいいと思います。市には手話ができる方がいらっしゃいますよね、その方を頼ってそういう方たちにスポーツを楽しんでもらうのも一つ。2025年にデフのオリンピックが開催されます。デフは聴覚障がい者の方のオリンピックです。この方たちはすごく辛いんですよ。一般の高校に行っても健常者の子たちと一緒にクラブ活動をやっているんです。聞こえないんです。大会に行っても何を言っているかわからない。先輩、コーチの声も聞こえない中で健常者と一緒にやっていますね。全く身体的には問題がないからやっています。2年前に鈴鹿の高校生が世界大会に出て2位になりました。この子は伊賀市出身らしいんです。両親が聴覚障がい者でお子さんが東海大会優勝した方もいらっしゃいます。私たちの身近には必ず聴覚障害の方がいらっしゃいます。一緒にスポーツをやりたい方はたくさんいると思います。公募の方法もあると思います。いろんな意見を聞いてほしいと思います。

(会長)

ほかにご意見はありますか。

(委員)

できれば、競技を直接やっている人ではなくてそれを第三者的な目で見られる方、例えば若い方がっということであれば青少年育成の夜回りをしている方とか、そういう人がもし見えて駅前でスケートボードをやっている人たちがある程度理解できるような方がいいなと私は思います。

(会長)

他にございませんか。ではないようですので皆さまにお諮りいたします。委員の意見も踏まえつつ事務局の提案どおりとさせていただいてよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは、議事について承認とさせていただきます。我々委員の中からの選任はどうなるんですか。

(事務局)

想定をしておりますのは、まず臨時委員の委嘱は市長がするのを想定しておりまして一旦スポーツ推進審議会の臨時委員になっていただきまして、専門部会へは会長からの指名によるものとなります。

(会長)

この委員の中からは手あげになるのか、事務局から相応しい人を選任するのかその辺はまだ明確に決まっていますか。

(事務局)

その辺は最終的には冒頭申し上げましたとおり、施設整備に向けての基本的な枠組みと言いますか立地場所、どういうスペックなのか等を結び付けていきたいのでその中には委員の意見にもあったような方もおりますし、専門的なものや、例えば民間委託をするのであれば PFI の手法に詳しい方もおられるでしょうし、まずはこの計画を作りあげられるような形でご参加していただける方を考えております。

(会長)

わかりました。

③検討スケジュールについて

資料 4

(会長)

続いて事項書 3 ③検討スケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

事務局説明。

(会長)

以上、説明が終わりました。では、委員の皆さんから何かご質問、ご意見等ございませんか。協議事

項をまとめた質問でも結構です。

(委員)

すごく順調に進んだとして、施設の建設にかかるのは何年度くらいからになるのですか。

(事務局)

基本的に来年度はあるべき姿というか、実施設計に向けたある程度の枠組みを作りたいと思っています。その後実施設計であるとか場合によっては地元地域との協議等も入ってきますので、それにも時間が必要かと思っています。予算の関係もありますし具体的に例えば、補助金の活用民間の活力であるのかであれば民間の業者をプロポーザルで募集する手間も1年かかるとお思いますので、見通せないところがありますので見えてきた段階で皆さんにご報告をしていきたいと考えています。

(委員)

施設の建設ありきだけでなく競技する人の人数を増やすことが大事だと思います。伊賀市の課題の中に原則禁止されている公共施設とありますが、原則であって規制緩和をすることで身近でできるようになる施設があるのかとか、私もアーバンスポーツ施設についてと資料をいただいたときに言葉自体アーバンスポーツって何だろうと思って近くの人にも聞いてみましたが、あまりピンとこない人が多くてBMXとかスケートボードとかっていうと理解できるんです。同僚の通訳さんに聞いてみると、アメリカの方では子供たちが交通手段の一つとして自転車とかスケートボードとかを使って移動して、日常茶飯事に目に見えるというかそういうところで育っている。どこかへ体験しに行かなくてもその場でできるそんな環境にあるそうです。でも日本の場合は交通事情があったり、規制があったりしてなかなか若者がする場所がない。オリンピックで認定されたスポーツで一時よりも皆さんの目は柔らかくなったかなと思う部分はあるんですが、まだまだ身近でするところがない。今見ていたら親の目の届く範囲で、本当に小さな子がキックボードを楽しそうにしている、その一環としてスケートボードができるのかなど。体験ができるっていう支える側として、機会を作っていくかないといけないと思いました。そこで原則という部分で緩和が可能であるのかどうかを聞かせていただきたいです。

(会長)

四日市は街路樹のところスケートボードをしてもいいように整備をしたんです。だからそんなにもお金はかけなかったようですし、いろんな手法があると思うんです。スケートボードだけに特化するよりも多数のご意見がありましたように、複合的に使えるような設備になってきたときには予算の問題もありますので、なかなか我々が言葉で希望・願望のような形で具現化できるかはかなりハードルが高い要素がありますが、答申は伊賀市のあるべき姿にしていきたいと思います。

(委員)

前回、伊賀市のスポーツ施設は古いし老朽化が激しく新しい施設がない中で、今こういうアーバンスポーツ施設を市から造ろうやないかということは素晴らしいことだとまず感じましたし、中身についてはこれからいろんな話の中で精査されていて、いろんな意見を聞かせていただいている中でいいものができればいいなというのがまず一つの思いだし、先ほどの意見ですが地域で地元の近くで身近なところでできることがひとつの魅力だと思って、そういうところからだんだんやっている人も増え

てきて施設もできてそこへ行こうって、そういう底辺の部分からいろいろ普及できていったらいいなと思うのでまずは簡単にできるというか、こういう施設がすぐにできるわけではないのでその間にもやるべきこといっぱいあるんじゃないかと思えますので、そういったところの普及も含めて最終的にいい施設ができたらいいなと思います。

(会長)

ありがとうございます。他にどうでしょうか。

(委員)

サッカーが主ですが、サッカーだけでスタジアムが使えるかっていうと年間にして11試合だけしかない。それ以外の日をどうやって使えばいいかというところをクラブでも考えていまして、そういう風なところからいくと、総合型の同じ施設にいろんなことができる場所があるのはいいんじゃないのかなど。サッカーを見る人もいれば、空いている時間である運動公園は公園を走っている方もいっぱいおられますし、何かそういうところが町にも近いですから行きやすいということもありますし、そういうところを兼ねてできないかなどさっきからお伺いはしていました。

(会長)

既存の施設の活用ということですね。それも一つの選択肢に入ってこようかとも思います。他にはいかがですか。

(委員)

もともとアーバンスポーツはストリートなんです。道でやる歴史がありどこでもできるものでイメージ的に言うと悪いイメージがあります。ダブルダッチも空き地でやり始めてという流れで、道のどこでもできるんですが、今は道ではできません。なので年齢に関わらずアーバンスポーツにも関わらない総合的な施設がいいと思います。施設があっても施設でアーバンスポーツをしない若者も出てくる可能性もあると思うのです。

(会長)

BMXをされているお立場で伊賀市、伊賀地域での愛好者数は何人程度でしょう。正確な人数でなくても大丈夫です。

(委員)

私のスクールの生徒は30名くらいです。こどもから大人までいます。現在でも体験スクールの問い合わせはあります。

(会長)

競技会のかたちはとってないのですか。大会みたいな形は。

(委員)

まだです。

(会長)

優劣を争うとこまではいかないですか。愛好者のみですか。

(委員)

その中でも毎日練習に来ている子達はいます。先ほどのストリートの話ですが25年位前ですかね、大内のドライブインで活動をやっていました。最初は不良グループみたいな感じで思われていて、乗るなど注意されていましたが、ずっと練習し続けているといつしか監視役になるからいてくれた方がいいと、事件が起こりにくいとそういう目線でみてくれるようになったという記憶があります。アーバンスポーツは狭い世界なのでまだわからないことが多いですが少しずつ知ってもらえたらいいと思います。

(委員)

前回広報に掲載されていましたが、あれだけじゃ広報にならないですよ。見てワクワクさせるような興味を示していただければスクールにも集まると思います。私の周りでも子供たちがBMXの自転車に乗っています。小学生3.4.5年生くらいの男の子です。画像を広報にさせていただきたいと思いました。そんな子供たちが公園で始めて、実際にコースに行きたい子が増えてくるかもしれませんね。

(委員)

先ほどの意見にあった障がい者の提案の件ですが、僕も賛成で私の両親がろうあ者で育ちました。そんな中で育って、ずっと好きなことをさせていただいて今こうやって来させていただいてとても共感しました。

(委員)

私が指導をしている教室に手話が必要な人がいたので手話を勉強しました。聴覚障がいの方のテニスの指導をしたいということが目標で資格を取りました。聴覚障がいの方はとても遠慮がちで加わろうとしないんです、自分たちの世界を作っていました。そうじゃなく同じことをして楽しもうよと思います、身体は健常者ですから。

(会長)

非常に大事な視点だと思います。我々日々の生活の中で五体満足は当たり前という生活、日々の中で一方障害をお持ちの市民の方もたくさんおられると思いますので、そういった視点も取り入れながらスポーツは健常者だけのものではありませんから、確かに言えると思いますので今後のアーバンスポーツの取組みについても検討協議を加えていきたいと思います。他にいかがでしょうか。

(委員)

学校教育の体育の単元で人気があるスケートボードが取り入れられて行くとか文科省とか学校教育の位置付けはいかがでしょうか。

(委員)

認識不足で申し訳ありませんが、学校教育の中でスケートボードはしていません。学校では学習指導

要領がありそれに基づいて体育の授業を行われているので、文科省がスケートボードやボルタリングだったり、そういうものを体育の授業でやっていいよとおりにてきた場合でしたら恐らくそういった種目も学校の中へ入ってくるのかとは思いますが、まだ学校教育の中ではそれはないと思います。

(委員)

これはスポーツ庁からきているわけですね。

(会長)

市の諮問であり、幹部クラスの人にも伝えながらこういう考え方をまとめたものです。国が大きく推進しているから伊賀市もやるんだということではないのかな。

(事務局)

伊賀市独自の考えでもあるんですが、国でも若い子のスポーツ離れがあってスポーツ人口を増やしていくためにも、東京オリンピック2020で正式種目にBMXやスケートボードを取り入れた経過もある中で、やはりそれを踏まえてオリンピックのレガシーとしてそういうものも今後進めていきたいと思います。地域の活性化も活用してやって行きましょう、というような方向性の検討をアーバンツーリズム研究会が答申を出して報告をされているので、国としても今後そういう方向で物事を言うていくのではないのかなというレベルです。

(委員)

小学校あたりだとスラックラインだとかダブルダッチ、特にダブルダッチは結構やっています。そういうものも指導してみるのもおもしろいかなと思います。例えば道具が必要なものは買わなければならないし小学校の指導要領は割とざくっとした文言で書いてあるので、そういう取り入れられるものは取り入れてやって行くことはできると思います。

(会長)

市内でもダブルダッチで全国大会に出場した子もいましたね。そんな子も地元におられるということですので、今後は身体能力というのかいろんな意味でこどもの身体の成育、身体だけではなく脳も含めてそれにこういうスポーツが寄与するのであれば伊賀市としても前向きに取り組んでいくべき分野かなと思いましたが、今回市からの諮問ですが何らかのよりよい答申に向けて専門部会でも協議していただくことになりましたので、事あるごとに関心を持っていただきながら日頃情報を収集していただきたいと思います。他にご意見はないですか。ないようでしたら皆さまにお諮りいたします。事務局の提案どおりとさせていただきます。よろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

それでは議事について承認とさせていただきます。事務局から何かございますか。

(事務局)

ありません。

4. その他

(会長)

事項書4その他について事務局から何かありますか。

(事務局)

ありません。

(会長)

それではこれで本日の審議会を閉会させていただきたいですが皆さんよろしいでしょうか。

(委員)

異議なし。

(会長)

皆さん、長時間にわたり貴重なご意見を承りました。まだまだ寒い日が続きますし伊賀地方も久々に大雪に見舞われました。皆さん方のお体には十分ご自愛されまして健康に気を付けながらそれぞれのお立場で活躍されることをお願い申し上げまして閉会といたします。ありがとうございました。

了